

# ここが聞きたい 4人の議員が一般質問

一般  
質問

第3日目に一般質問が行われ、4人の議員が町政について質問しました。



北條 勲 議員 (7ページ)

- ① 以前の回答について詳細を伺う
- ② NIE教育について
- ③ スクールバスの混乗化について



大島 浩 議員 (8ページ)

- ① 生涯学習センター水橋分館の改修について



水沼 孝夫 議員 (9ページ)

- ① 行政の人口減少・少子化対策不足による町の未来崩壊について



増淵 さつき 議員 (10ページ)

- ① 認知症対策の推進について
- ② 子育ての充実について

## 一般質問とは



一般質問は、定例会において行われ、議員が町の行財政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求めるものです。質問する議員も、受ける執行機関もともに十分な準備が必要なことから、通告制とされています。

質問時間は、1人につき質問・答弁を含め60分以内とされています。

〈次回の定例会は3月4日からの予定です〉

## みんなで議会を傍聴しましょう

議会は、はがチャンネルでも放送します。

### — 放映時間 —

会議当日	午後8時から
再放送	翌日の午後2時から



北條 勲 議員

## 一般質問

答弁で検討します。その後の結果について

### 問

① ホームページの更新は。

② 町民の歌の放映は。

③ ウォームビズは。

④ 学校の全トイレの洋式化は。

⑤ お盆中の学校閉庁

は。

⑥ 選挙の投票時間の短縮は。

### 答

町長

① 来年度以降利用しやすいよう改修します。

② 芳賀タウンインフォメーションで背景音楽を流しています。

③ 当面ウォームビズ実施の予定はありません。

教育長

④ 学校から洋式化への要望はありませんので完了したとの認識です。また、災害時には簡易トイレで対応します。

⑤ 8月13日から16日までの4日間を閉庁しました。

選挙管理委員長

⑥ 選挙管理委員会や自治会連合会でも協議をしましたが、結論はでていません。慎重に考えます。

問 今後は検討しますと答弁をした場合の報告は。

答 総務課長 質問をした議員には、庁議で協議をした結果を

連絡します。

NIE教育について

### 問

学校教育で新聞を教材として利用する学習活動は。

### 答

教育長

当町でも夏休みに総合情報館や町民会館で地元新聞社の協力をいただき、

スクールの混乗化について

### 問

スクールバスに住民が児童と一緒に乗れる制度である。登校時だけでも芳賀北と南小学校のバスは空車で祖母井に戻るの

### 問

問合い利用とは、スクールバスの登下校時間帯以外をコ

### 答

都市計画課長

LR Tに向けて公共交通の見直しに取り組んでいます。まずは、民間のバス会社とタイアップして、いかに乗りやすい環境をつくるかを第一に考えています。その次に、デマンド交通や問合い利用も含めて検討します。

### 答

こども育成課長

混乗化を実施して

いる自治体は、公共交通の空白地域があり住民の移動手段が確保できない理由からです。

当町ではデマンド交通で対応していますので現時点で混乗化の予定

はありませ

出前講座を実施しました。今後も学校教育において新聞の活用を促します。





大島 浩 議員



▲水橋分館

## 生涯学習センター水橋分館の改修について

**問** 水橋分館の改修について伺う。

**答** 町長 ①水橋分館の整備方針については、水橋地区の生涯学習の拠点として、市民の皆様が快適に利用していただけるよう施設の改修工事を適切に行っています。

ただし、建築から40年余りが経過し、ご指摘のとおり老朽化が進んでおり修繕が必要な箇所もふえています。現在のところ、大規模

な改修はありませんが、災害時に対応できるように避難時に優先される部分の改修を計画的に進めています。

②水橋分館は、防災上重要な町有建築物であり指定避難所としての位置づけをしています。避難所については、地震や風水害など発生した災害状況に対応できる適切な施設を慎重に判断して、その都度避難所指定をしています。水橋分館に限らず、

公共施設は避難場所として活用できるように平常時より衛生面には万全の注意を払って施設管理を行い、さらに、災害発生時には、芳賀町地域防災計画に従って衛生面を確保し、飲料水や食料を確保します。

**問** 町の総合検診は、水橋分館を拠点にして、どれぐらいの利用率があるのか伺う。

**答** 健康増進課長 総合検診では6月と9月と10月、それぞれ2日ずつ、年計6回総合検診を実施しております。例年ですと、900人を超える受診者の方に利用していただいています。

**問** 水橋分館は、避難所として指定されているが、老朽化が激しいため建て替えも含めて整備の検討時期などを伺う。

**答** 町長 平成31年度に中期計画を策定するため、その中で振興計画に織り込んで検討に入る予定です。

水橋分館は生涯学習の拠点、避難所であり、生涯学習の拠点だけではなく、中期計画の中でより具体的な方向性を示す時期に来ていると思っています。



▲水橋分館アコーディオン式扉のトイレ

# 行政の人口減少・少子化対策不足による町の未来崩壊について

## 一般質問



水沼 孝夫 議員

**問** 国の地域別将来推計人口によると芳賀町の人口は2045

年、26年後に現在の1万5000人から6607人減って9122人になり、約40%も人口が減ると予測されている。5年前の前回調査よりさらに減少率が悪化しており、このままではいずれかの時点で町の未来崩壊につながる。少子化・出生率の改善、社会保障費の将来負担、町の将来像

について伺う。

**答** **町長** 人口推計に対する詳しい考察

を今年度中に進める予定です。合計特殊出生率については緩やかな回復傾向にあり、国・県の総合戦略と一体となって改善に努めていきます。社会保障費は国保、介護保険の財源が逼迫するなど上昇し、生産年齢人口の減少により町の財政構造に大きな影響が想定されます。将来像については、次期4年間の中期計画を平成31年度に策定します。人口減少社会にあっても持続可能なまちづくりを進めるため、今後とも努力していきます。

**問** 大阪の守口市では0歳児から5歳児

の幼稚園・保育園等の利用者負担を親の所得に関係なく無償にする取り組みを始めた。結果1年で子供が128人増えて、20代の男女が363人も増えた。芳賀町ではこういった思い切った政策は考えられないか。LRTは造ることが目的ではなくLRTを活用してどういう町づくりをするかが問題であるがいかがか。

**答** **企画課長** LRT事業、祖陽が丘、土地改良の推進が独自性のある事業と認識しています。LRTの活用は十分認識しているが現時点では全庁的な協議が出来ていません。来年以降LRTの活用も含め広い視野で検討していきます。

**問** 子供の出生数として7、8年前には150人ほどいたものが100人まで減ってきた。この先50人以下になる予測がされている。今やっている政策で少子化は止められるか。

**答** **企画課長** 実際に改善するかというと国の施策に沿って実施していますが、自治体によって差が出ます。国の施策に沿って実施していくということが正しいと思って進めています。

1人を支えなければならぬ状況になる。町内の商業も工業も農業もみんな成り立たなくなっていく可能性がある。今、何をすべきかまずと結論は出てくる。まずは社会増を増やしていく土地政策の見直しが必要ではないか。芳賀町が1万人を割って9000人に減っていくこんな状態未来崩壊を本当に町民は受け入れるのか、そんなことは行政としてやってはいけません。早急な対応をお願いしたい。

**最後に** 人口が減っていくという事

は働く人もいなくなるという事で、2030年、11年後には従属人口と生産年齢人口が一緒になり1人で



## 一般質問



増洲 さつき 議員

### 町の認知症高齢者対策は？ どう増やす、認知症サポーター



▲RUN伴栃木 芳賀町で開催

**問** 国の推計によると、認知症高齢者は2012年の462万人から、2025年には約700万人に増える

と見込まれている。公表された県内の認知症サポーター養成数では、芳賀町が702人、人口比4.4%、下位に位置している。認知症に対する正しい理解者を増やすための施策をお聞

**答** 町長 サポーター養成数は平成22年

度から着実に増えており、この半年間で15

8人増え、860人となつています。平成32年度までにサポーター数1000人の目標達成のため、

①みまネット協力事業所44社に、養成講座開催の依頼

②認知症への理解を促す「RUN伴」の来年度開催時や二、三年に一度、新規採用の町職員を中心に養成講座を開催

③毎年中学二年生又は一年生を対象に養成講座を開催するよう教育委員会を通して依頼

### 子育て支援の充実のために いつまでも待機児童「なし」は続きますか？

**問** 子育てと仕事の両立のため保育施設がある。芳賀町の待機児童はいないようだが、今後、「祖陽が丘」などへの子育て世代の転入者が増加した場合の対応をお聞きます。

**答** 教育長 町では、芳賀町子ども・子

④引き続き各種団体や生きがいサロン、シニアクラブ、行政区などでも開催を依頼していきます。

**問** 認知症の高齢者が徘徊中に事故を起こした場合は賠償責任保険への加入支援事業の導入はどうか。

**答** 町長 町としては、

当面、保険の案内のみとし、近隣市町の状況も見守りながら対応していきます。

育て支援事業計画に基づき、「子育てを皆で支えあう笑顔あふれるまち」を基本理念として、働きながら安心して子育てができる環境の整備に向けた取組を進めています。町内の保育施設との連携や、近隣の市町との入所協議により、転入されるお子様が保育施設に入所できるよう努めています。

**問** 保育園に入園できない子どもを保育する「保育ママ」制度(家庭的保育事業)導入について、町の考えは？

**答** 教育長 待機児童への対応や、多様な保育ニーズの観点からは有効であると考えますが、町としての待機児童はおりませんので現時点では取り組む予定はありません。

**問** 芳賀町ファミリーサポートセンターの会員数と利用状況、そして今後の展開は？

**答** こども育成課長 まかせて会員9名、おねがいが会員16名、どちらも会員5名、計30名で運営しており、29年度は、合計92回の利用がありました。受け手の会員が少なく要望に受けきれっていない現状にあるため、子どもたちの健やかな成長を地域で援助していく体制について庁内の各課や福祉、保健部門の関係団体とも連携の上、協議していきます。

**問** 保育園に入園できない子どもを保育する「保育ママ」制度(家庭的保育事業)導入について、町の考えは？

**答** 教育長 待機児童への対応や、多様な保育ニーズの観点からは有効であると考えますが、町としての待機児童はおりませんので現時点では取り組む予定はありません。



▲芳賀町立祖母井保育園